

ガーデニングに挑戦(2)

研究開発本部 不破 規智

北海道の5月は、ガーデニング用の植物を植え付けるのに最適の時期です。しかし実際には園芸店の店頭で多くの花苗が並ぶのが4月中旬で、5月下旬になると種類が少なくなってしまいます。前回ご紹介したような「寒さに強い種類」は早めに植え付けてもよいのですが、ペチュニアなどそうではない種類は購入後ポットのまま日向で育てておき、適期の5月中～下旬に植え付けるのが安全です。

<寄せ植えの主役にペチュニアを>

ペチュニアには100円前後の一般苗と、300円前後のラベル付き苗があります。近年の店頭で最も種類が多いのがラベル付き苗の方で、これらはぐんぐん生長して数えきれないほどの花を咲かせる性能があるため、いまやガーデニングの寄せ植えには欠かせない存在となっています。

(大きくなりすぎたら切り戻して若返らせる)

これらペチュニアは大き目の鉢やコンテナ等を使った寄せ植えで真価を発揮しますが、順調に育つと7月頃の暑い時期には水やりを毎日しても追いつかなくなり、徐々に花数が減ってきます。そんな時には思い切って「切り戻し」を行い、株を若返らせることで再び晩秋まで咲かせ続けることができます。ペチュニアは生長している間、水代りに液肥を与えてもよいくらいで、追肥をしっかりと行うことがたくさん咲かせるコツです。

ペチュニアは、もちろん地植えでもよく育ち多くの花を咲かせます。この場合でも追肥をしっかりと行い、夏に花が少なくなったら株が半分程度の大きさになる



ように切り戻しをしておく、霜が降りる頃まで咲かせ続けることができます。

<ホスタは手間いらず>

鉢やコンテナに植えたペチュニアには少々の手間がかかりますが、ホスタ（ギボウシ）は丈夫で、日陰～半日蔭の庭にぴったりの植物です。華やかさはありませんが大きく葉を広げて周囲の雑草の生育を抑え、夏には白～淡紫の涼しげな花を咲かせます。

緑地に白の斑入りや黄色の縁取りなど葉の色に様々なバリエーションがあるほか、黄葉するタイプの品種を植えると、晩秋の一日ごとに変化する葉の色を楽しむことができます。

(ホスタ栽培のコツ)

まず、適した場所を選ぶことです。北海道では日なたでも問題なく生育しますが、美しい斑入りの葉を楽しむには半日蔭でやや湿った場所の方が有利です。

苗を植える際には、肥沃で湿った土壌を好むので痩せた土であれば腐葉土などを入れて土壌改良します。





肥料を多く入れる必要はなく、生育期に少し与える程度で十分です。

その他は咲き終わった花茎を切り取り、晩秋に枯れた葉を取り除くことくらいで、とても簡単です。株が大きくなったら晩秋または早春に、3～5芽程度ずつ株分けして殖やすこともできます。

<蝶を呼ぶ花、ブッドレア>

北海道の夏によく咲く植物としてブッドレアがあり、初夏から秋にかけて、小さな花の集まった円錐形の花房を次々に咲かせます。花色はホワイト、ピンク、紫が基本で小花の中心がオレンジ色のものが多いです。この花は甘く香り、‘バタフライブッシュ’の別名が表すとおり蝶がよく集まります。



(本来は花木だが、北海道では宿根草のように育つ)

ブッドレアは暑さ寒さに強く、地植えすれば初心者にも育てやすい植物です。本来は高さ3メートル以上になる花木ですが、寒冷地では冬に地上部が枯れて春に地際近くから新芽が伸びるため、宿根草のような生育パターンを示します。普通の品種は北海道でも2メートルほどまで生長しますが、近年は小型の品種が店頭に並ぶようになり、これらは1メートル程度です。



(晩秋に切り戻す)

温暖地であれば冬には落葉して地上部も越冬するのですが、北海道では寒さのため多くの枝が枯れてしまいます。どうせ枯れてしまう枝ですから、積雪の重みで押し潰されることを防ぐために、越冬前には地面から10～20センチメートルのところで切り戻すのが安全です。その後、春に再び萌芽し7月頃からまた花を楽しめます。

<タチアオイを見直しましょう>

タチアオイはアオイ科の大型な多年草または一年草で、多くの品種は寒冷地で越冬し初夏から盛夏に大輪の花を次々と咲かせます。北海道では夏の庭先で白、ピンク、赤の花が咲くのをよく見かけ、「コケッコ花」の呼称が一般的かもしれませんが、古臭いイメージを持たれる方が多いようですが、近年はワインレッドや黄色、覆輪、八重咲きなど美しい花を咲かせる多くの品種が流通しています。



(花を咲かせるのは越冬後の株)

タチアオイは、北海道では越冬後の夏に開花し、数年は毎年同じ株が開花する丈夫な宿根草として扱えます。咲き終わった花から晩夏や秋に種子がこぼれると春に発芽しますがこの年は開花に至らず、越冬して翌年の開花になります。複数の品種を植えておくと自然に交配され、こぼれた種子から思いもかけない花が咲くことがありますので、これもガーデニングの楽しみと言えます。

<おわりに>

今回は、北海道のガーデニングに向くペチュニアと宿根草(多年草)の一部を紹介しました。特にペチュニアはこの30年ほどで品種改良が大きく進み、以前とは比べ物にならないくらいよく育ち多数の花を咲かせる品種が流通しています。一方、北海道に適した宿根草も、古いものとは見違えるような新しい品種がたくさんありますので、好みの品種を選び楽しんでみてはいかがでしょうか。

※「切り戻し」とは伸びすぎた古い茎や枝を短く切除することにより、残った株の根本や枝の節から新たな若い茎や枝の生長を促し、再び多くの葉や花芽を形成させる操作のことです。